

工學博士男爵古市公成氏逝去

樞密顧問官 男爵工學博士古市公成氏は昭和7年未極微な胸溢血を起して以來 澁谷區常盤松 18 の自邸にて静養中、心臓性喘息を併發し遂に1月29日午前3時逝去した、享年81歳、告別式は2月1日午後2時より3時迄青山斎場で佛式により執行された、謹んで哀悼の意を表す。

氏は姫路藩士古市孝の長男として安政元年に生れ大學南校を卒へ明治8年佛國に留學、エコール・サントラル並にパリー・ソルボンヌ大學を卒業し、理學士の學位を受けて同



13年歸朝後土木局雇、内務文部各省御用掛、内務技師、帝國大學教授、同學長、内務省土木技監、同土木局長、選信次官、同總務長官兼官房長、鐵道作業局長官等に歴任し、日露戰役の際京釜鐵道總裁となり、次で韓國統監府鐵道管理局長官に任命後官界を退き實業界に入った。明治21年我が國最初の工學博士となり、同23年第1議會に貴族院議員に勅選せられ、大正8年には勳功により男爵を授けられ、更に同13年には樞密顧問官に親任された、男は又東京帝國大學名譽教授、帝國學士院會員として我が土木工學界の大先驅であり、教授勅選樞密顧問官など何れもその最初の椅子に就いた人である。昭和6年宗秩寮審議官に任ぜられ今日に至つた。

男は土木工學界の恩人として我が國の大きな土木事業には大概直接間接に關係して居られるが、中でも横濱港の岸壁工事と信濃川の改修工事は氏の快心のものとして生前得意としてゐた、又工學會理事長、日本動力協會々長、土木學會會長として或ひは工學院創立者として工學教育の普及にも大いに意を注ぐ所があつた、趣味としては觀世流の謡は相當名が聞えて居つた、家族は夫人との間に七男三女の子福者である